

世界経済・金融市場動向(日本)

先月の振り返り

01 日本株式市場

9月の日経平均株価は下落しました。上旬から中旬は、原油価格や国内金利が上昇したことを背景にエネルギー・金融セクターが買われ33,000円台を回復する局面がありました。下旬からは、FOMCにおいて米国の金融引き締めの変更長期化観測が投資家心理を悪化させたことで海外株式市場が売られる展開となったことや、9月末の配当落ちなどもあり幅広い銘柄が下落しました。

02 日本債券市場

9月の日本長期金利は大幅に上昇(価格は下落)しました。上旬は、植田総裁の発言からマイナス金利の早期解除の観測が浮上し、長期金利は0.7%まで急上昇しました。中旬には、米国の金融引き締め長期化観測を嫌気し、金利上昇が継続しました。下旬は、日銀の金融政策決定会合にて金融緩和維持が決定したものの、世界的な金利上昇の流れを受け、長期金利は2013年以來の水準である0.755%まで上昇しました。

経済金融環境

01 日本経済環境

8月景気ウォッチャー調査では家計動向、企業動向、雇用動向のいずれにおいても低下し、景気現状判断DIは53.6と2か月ぶりの低下となりました。先行き判断DIについても51.4と低下しており、物価の上昇などによる節約志向が拡大していると考えられます。また、毎月勤労統計における実質賃金は前年同月比▲1.6%と物価の上昇に賃金が追いついていない状況が続いております。

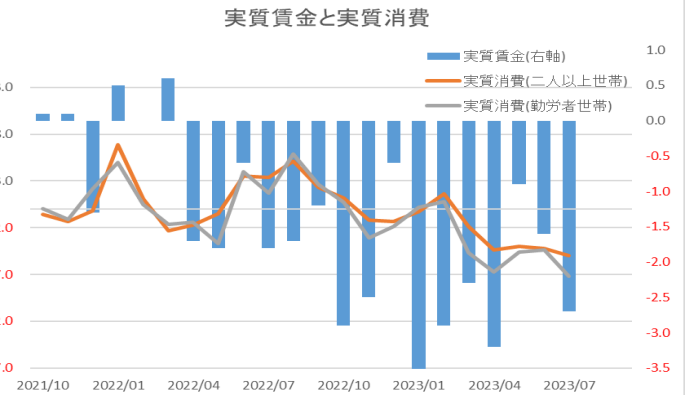
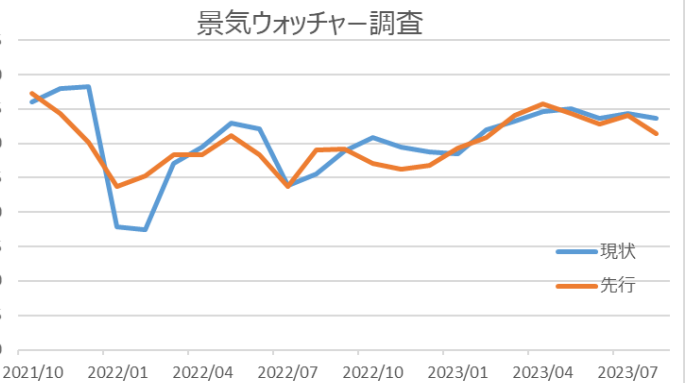
今後の見通し

01 日本株式市場

中国や欧州の景気減速警戒感や、米国長期金利上昇に伴う米国株安の影響が継続した際には、日本株への下落圧力は強まると考えます。

一方で、物価上昇の落ち着きや底堅い国内経済活動が確認された場合には株価は上昇すると考えます。

また、10月中旬から本格的に企業決算が始まることから、変動性の高い相場が見込まれます。



(注) データ期間：2021/10/1~2023/9/30
(出所) Bloombergのデータを基にFDAlco作成

02 日本債券市場

国内の物価上昇圧力に伴う根強い金融政策正常化観測から、国内金利は上昇傾向が続く展開になると考えます。一方で、YCCの上限である長期金利1%付近では、臨時の国債買い入れオペなどを通して、急激な金利上昇をけん制すると考えます。

また、海外において金融引き締めの影響による景気減速が確認され、海外金利が低下に転じる局面では、国内金利も低下すると考えます。



■当資料は、情報提供を目的として、FDAlcoが作成したものです。特定の運用商品等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料にもとづいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信憑性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

世界経済・金融市場動向(米国)

先月の振り返り

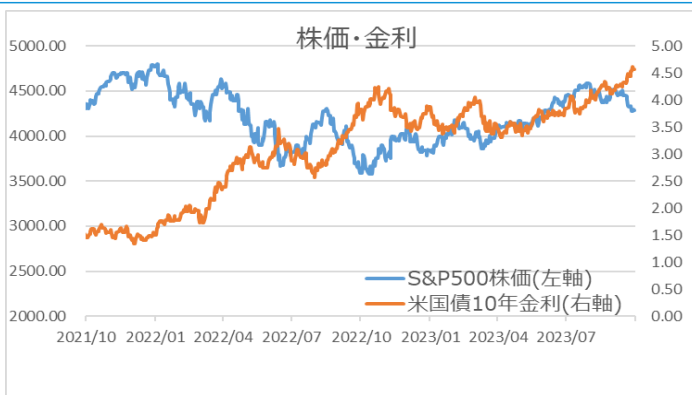
01 米国株式市場

9月のS&P500指数は下落しました。上旬から中旬にかけては、中国やユーロ圏の企業景況感が低調となり、グローバル経済への懸念が高まりました。さらに、米中摩擦の悪化や原油高によるインフレへの警戒感から、リスク回避姿勢が強まり、株価は下落しました。下旬には、FOMCにて金融引き締め長期化が示唆されたことや、米政府機関閉鎖への懸念が嫌気され、株価は下げ幅を拡大しました。

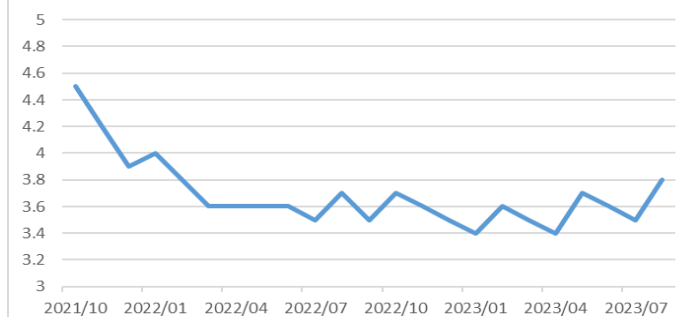
02 米国債券市場

9月の米国長期金利は上昇(価格は下落)しました。上旬から中旬にかけては、社債発行が相次いだことによる米国債券の需給悪化などを受けて、金利は上昇しました。

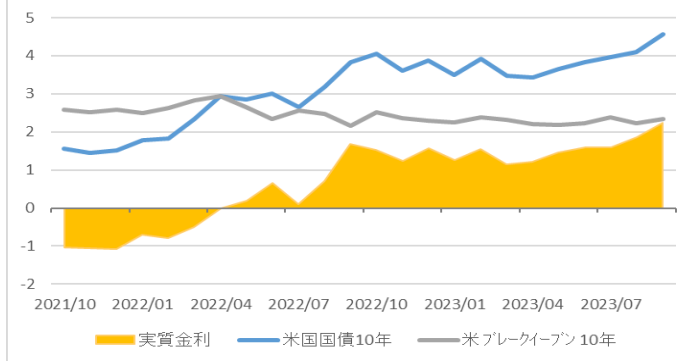
下旬は、FOMC会合後に発表されたドットチャートで年内の追加利上げ及び金融引き締め長期化が示唆されたことにより、金利は上昇幅を拡大させました。



米国 失業率



実質金利動向



経済金融環境

01 米国経済環境

失業率は3.8%と22年以降上昇しているものの依然として過去平均と比較して低水準にあることから、底堅い労働市場が示唆されました。

名目金利の上昇に伴い、実質金利も2%超へと上昇しており、ローン金利上昇などによる消費活動への影響には注視が必要です。

今後の見通し

01 米国株式市場

FRBによる利上げ停止観測や米国経済のソフトランディング期待が株価の支援材料となるものの、金融引き締めの累積的な効果や、個人貯蓄減少に伴う消費減退などの影響が顕在化した場合、株価は下落すると想定します。

また、10月中旬から本格化する企業決算および業績見通しにより、変動性の高い相場展開が予想されます。

(注) データ期間: 2021/10/1~2023/9/31
(出所) Bloombergのデータを基にFDAIco作成

02 米国債券市場

堅調な雇用や景気の底堅さから、FRBは金融引き締め長期化の姿勢を示したことで、当面は金利の高止まりが予想されます。しかし、高水準の金利が与える経済への悪影響の兆候がみられることや、インフレ鈍化を背景に、今後は金利の緩やかな低下を想定します。

一方で、インフレ再燃を示唆する経済指標の発表や、米国債券の需給を巡る懸念が強まった場合などは、金利はさらに上昇すると想定します。



■当資料は、情報提供を目的として、FDAIcoが作成したものです。特定の運用商品等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料にもとづいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信憑性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。